玉城町玄甲舎プロジェクト

2017

- 6 ・キックオフミーティング
- 8 ・ミーティング
- 8 ・玉城町まちあるき（三重TVの撮影）
- 8 ・三重TVにて玄甲舎のPRと100人委員会の告知
- 8 ・ワカモノ・ヨソモノワークショップ
- 8 ・玄甲舎新聞の作成
- 8 ・第1回玄甲舎利活用人委員会100人委員会
- 9 ・分野別ワークショップ
- 10 ・玄甲舎修復現場の見学
- 10 ・11月の三重TVの放送に向けてのミーティング・対策
- 11 ・台風により玉城町、玄甲舎に被害が発生により活動が一時停止状態になる
- 12 ・ワークショップ
- 1 ・玄甲舎をPRするためのCM（ショートムービー）作製に取り掛かる
- 2 ・引き続きCM（ショートムービー）作成
- 2 ・玄甲舎利活用ワークショップ
- 3 ・第2回100人委員会

◆今年度の活動を振り返って（成果と課題）

玄甲舎プロジェクトメンバー全員が玉城町にあまり馴染みがなく、ヨソモノ・ワカモノの状態で活動を開始した。ワークショップや100人委員会等の活動では町民の皆様と関わり、様々なことを話し合う中で玉城町、そして玄甲舎について学び考えていった。また、メンバーの中でTV撮影やTV出演といったあまり経験することができない体験を味わったものもいる。

成果としてはまだまだ形に残るものはあまり出せていない。しかし、1月から取組んでいるCM（ショートムービー）作成が順調に進めば玄甲舎をPRするための物をメンバーが作ることができる。CM（ショートムービー）作成は、メンバーが15秒ほどの動画を作るために、構成を考え、写真・動画を自分自身で撮影し、動画を作っていくことになる。TV出演・作成につづいてメンバーに取って貴重な体験である。貴重な体験で言えば、玄甲舎を修復する職人の皆様は、京都の清水寺など歴史的建造物を数々修復してきた匠たちである。匠である職人の方々の仕事を見学し、技術を見せていただいたことも貴重な体験だった。

課題としては、メンバー全員がそろって活動する機会が一度もなかったことだ。いつも参加するメンバーに負担がかかり、そのメンバーが忙しくて参加できない場合、誰も参加ができないということが目立った。そのため、メンバーの活動参加率が大きな課題である。その他にも、町民の方々との関わりや知識・技術の拙さ、少なさが目立った。各自で活動に参加するにあたって、社会人として成長していきたい。

特にアピールしたいポイント

活動を通して、地域の力というのを実感しました。100人委員会やワークショップに出席し、意見を交換し合うことで、地域の人たちがどんな思いを持っているか、そしてその強さを理解しました。

また、通常経験することができないTV撮影・出演、伝統的な建築物を守っていくための技術について触れることができた貴重な体験についてもアピールしたい。

玄甲舎新聞
第1号
平成29年9月1日

活動実施主体：玉城町役場／総合戦略課
担当教員：池山　敦（教育開発センター）

地(知)の拠点